神田川コース

市ヶ谷から神田にかけての神田川沿いは
起伏に富み、地形の変化が見どころ。
景勝地から情緒ある下町まで、
浮世絵に描かれた風景を探そう。

番町大絵図

この切絵図（4点）はすべて嘉永3（1850）年に出されたものをベースにしている。千代田区立日比谷図書文化館蔵

本地図に描かれているのは、東西を内濠と外濠、南北を麹町大通りと目白通りに囲まれたエリアで、おもに現在の麹町、番町にあたる。この一帯は、将軍の警固にあたる大番組の屋敷が軒を連ねていた。小さい武家屋敷が多いうえ、住所表示や表札がなかった。そのため道に迷う人が多く、切絵図で最初に出版され、最も版を重ねたのが「番町絵図」だったという。現在は、学校や大使館などが多く、閑静な住宅街として知られている。

1 「市ケ谷八幡」 市ケ谷

map C-3

JR市ケ谷駅前の交番裏手にある外堀公園から西南の方角を見た景色。手前の濠はその姿を今にとどめる。市ケ谷八幡（現市谷亀岡八幡宮）は、江戸の基礎を築いた室町時代の武将太田道灌が鎮座（神奈川県）の鶴岡八幡宮より勧請した古社である。左側に見える火の見櫓は、尾張徳川家上屋敷（現防衛省）。

2 「牛込神楽坂之図」 飯田橋

map C-2

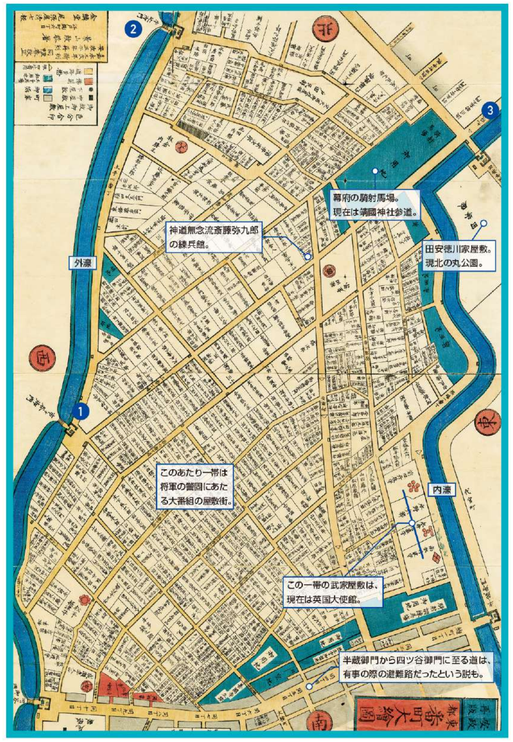
神楽坂通りの途中から坂下方面を俯瞰した光景。右側には団子屋などの店が並び、左側には旗本や御家人の屋敷が描かれている。正面に見えるのが江戸城外郭門のひとつ、牛込見附（御門）。御門の石垣は、その一部が健在で、江戸の遺構を今に伝える貴重な史跡である。

3 「飯田町九段坂之図」 九段下

map E-3

蟾蜍（ひきがえる）濠あたりから坂の上方を仰ぎ見た図。当時は、荷車を押す「押し屋」が待機して働いていたほど急勾配だったという。左手前の牛ヶ淵は、江戸市中の飲料用水を確保するために設けられたダムだった。北斎も「九段牛ヶ淵」（右）の作品を残している。

「九段牛ヶ淵」葛飾北斎 ボストン美術館蔵



4 「水道橋駿河台」 水道橋

map E-1

外濠通り沿いにある元町公園付近から、三崎町越しに広がる武家地を見た図。巨大な鯉が目を引く。「御城」祝いの行事だった端午の節句に、鯉幟を掲げるようになったのは江戸中期のこと。纐纈や吹き流しが許されたのは武家のみ。だから屋根は立身出世のシンボルである鯉を眺にしたのだろう。

5 「御茶之水之図」 お茶の水

map F-1

神田川の川面から水道橋方面を見る。釣りを楽しむのどかな情景だが、今も川の両岸は豊かな緑を携え、美しい渓谷として注目の場所。正面に見えるのは、江戸城に神田上水を導くために設置された懸樋（掛樋）である。

6 「御田明神」 外神田

map G-1

神田明神（神田神社）境内の本殿前より秋葉原方面を眺望した図。白く積もる雪に社殿の朱色が映える。江戸の総鎮守と称され、神田祭で賑しまれたばかりでなく、評判の眺めを楽しもうと、多くの江戸っ子が日の出や月見のために訪れた。

7 「東恋こみ坂の景」 湯島

map G-1

要恋坂のほど近くにある道幅の狭い立爪坂からの眺め。絵師広重のユーモアだろうか、坂の上には美しい桜と女性が、坂下には男と鼻をつまんだ男性が描かれる。満開の桜の木の奥に目を向ける上野、浅草が広がる。

本郷絵図

本地図は、南端を神田川が流れ、東には不忍池、西に伝通院、北の端には根津神社が鎮座する。現在の文京区を中心に千代田区、台東区に及ぶ、大名屋敷で目を引くのが、水戸藩と記された水戸徳川家の上屋敷（現小石川後楽園）、そして加賀中納言家と記された加賀前田家の上屋敷（現東京大学）。神社仏閣を表す赤囲みの土地が多いのは、明暦の大火のあとで多くの神社や寺が移転してきためである。現在は、文教地区として知られる。

8 「昌平坂乃遠景」 湯島

map G-2

外堀通りに面した湯島聖堂から、秋葉原に向かって下り坂（昌平坂）が続く。本図は、坂下からの眺め。斜面が迫り来るようなダイナミックな構図が魅力的。土手の上に立つ少年が覗き込んでいるのは、神田川。川を開削することで生まれた深谷と富士山を望めるこの場所は、景勝地として親しまれていた。

9 「昌平橋聖堂神田川」 神田淡路町

map G-2

昌平橋のたもとから、神田川越しに昌平坂を眺めた図。開苑の作品❸とは別の角度から昌平坂の魅力を伝える。降りしきる雨のなかにあって、両岸の緑が鮮やかだ。坂に沿って建つ旧塾の向こうがもと幕府の学問所が置かれていた湯島聖堂（昌平坂学問所）。

10 「筋違内八ツ小路」 神田須田町

map G-2

昌平橋から筋違橋に向かって旧中山道を50mほど歩いた場所に、江戸城外郭門のひとつ、筋違御門があった。本図は御門の内側に広がるハツ小路を東南から見下ろした景色。ハツ小路は火除地で、中山道や奥州街道など多方面につながる交通の要衝地だった。

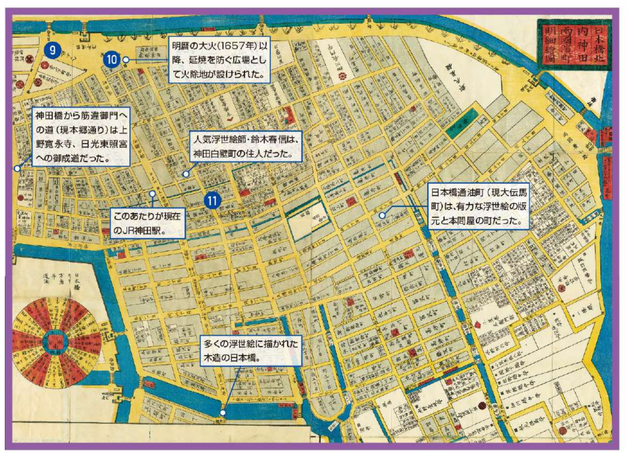
11 「神田紺屋町」 神田紺屋町

map H-3

JR神田駅からのびる神田金物通りと昭和通りが交わる付近から西を見た景色。描かれたのは、藍染職人が集まる神田紺屋町。藍で染めた生地を川で晒したあと、屋根上で乾燥させていたのだろう。風にはためくのは浴衣地だろうか。市松模様や遠近感の文様の中に、版元（魚屋栄吉）を示す文字が見える。

内神田両国浜町明細絵図

北端に神田川、東端に隅田川が流れる本地図は、現在の千代田区神田から中央区日本橋、墨田区両国をカバー。グレーで示された町人地の数が他の地域より圧倒的に多いのが特徴だろう。特に神田駅の東側は、鍛冶町、紺屋町、北鞘町といった町名からも察しがつくように、様々な職業の職人が集住した場所だった。隣り合う日本橋は、今も昔も一大商業地区。



こんな名所も

東海道五拾三次之内「日本橋　朝之景」— 歌川広重—

名所絵師の名を不動のものとした広重の代表作。東海道の起点となる日本橋はシリーズ最初の作品。大版橋の上には、江戸を発つ大名行列、その手前には天秤棒を担ぐ魚売りの姿が描かれている。

富士三十六景
「東都一石ばし」— 歌川広重—

作者他界後に発売されたシリーズの最初の作品。大名屋敷や江戸城が見え、その先に富士山を望む。一石橋は日本橋の東に位置し、八つの橋が見えたことから「八見橋」とも呼ばれた。

名所江戸百景
「市中繁栄七夕祭」— 歌川広重—

「名所江戸百景」は、広重の最晩年の代表作。江戸の魅力が凝縮されたシリーズのうちの一枚。作者が暮らした京橋付近から七夕の夕暮れを描いた。庶民の暮らし沁りが見える作品。

東都富士見三十六景「山王神事雪解の富士」— 歌川国芳—

ポップなデザインで近年人気の歌川国芳の作品。山王祭（旧暦6月）の山車をクローズアップした大胆な構図。左に描かれた瓦屋根や右の看板から山車の高さが想像できる。

千代田之大奥「千代田大奥 御花見」— 楊洲周延—

幕末・明治に活躍した浮世絵師楊洲周延の代表作。江戸時代には描くことが禁じられていた江戸城大奥内の出来事を想像で描いたシリーズは好評を博した。

ちよだ歴史さんぽMAP❷

千代田区観光協会
CHIYODA CITY TOURISM

発行：一般社団法人 千代田区観光協会
住所：東京都千代田区九段南 1-6-17
電話：03-3556-0391　FAX：03-3556-0392
E-Mail：info@kanko-chiyoda.jp
ホームページ：https://visit-chiyoda.tokyo/
制作：江戸文化歴史検定協会
https://www.edoken.jp/

外桜田コース

今も昔も政治の中枢を担う外桜田界隈。
整然と建ち並ぶ大名屋敷街や
風情ある内堀沿いなど、名所がいっぱい。
浮世絵を頼りに江戸の風景を歩こう。

1 「山下御門之内」 有楽町

map F-7

山下御門は、現在の帝国ホテル近くにあった。この絵はその御門のあたりから、濠の内側を見た景色。今では濠の一部が日比谷公園内に心字池として残るのみ。絵図を見ると山下御門の正面に松平肥前守（佐賀鍋島家）上屋敷があることが分かる。赤門は、将軍家の姫を迎えた証だった。

❶図部分

2 「東都葵ケ岡之滝」 虎ノ門

map D-7

現在は埋め立てられ、面影もないが、これは溜池の縁から流れ落ちる水によって形成されていた虎ノ門近くにあった滝。その水音から「どんどん」の愛称で親しまれていたという。左下の建物は金刀比羅大権現（現金刀比羅宮）。江戸の景勝地のひとつとして知られ、広重も名所江戸百景「虎ノ門外あふひ坂」などの作品を残している。

3 「霞ケ関の図」 霞が関

map E-6

桜田通りの霞が関一丁目交差点付近を描いた図。絵名は、かつて関所があったことに由来するともいわれる。画面奥（西）にのびる霞が関坂に向かって右手が広島藩上屋敷（現総務省）、左手が福岡藩上屋敷（現外務省など）。江戸城に近く、有力大名の屋敷が軒を連ねていたため、江戸を訪れた人が行く観光名所となっていた。

❸図部分

4 「桜田」 桜田門

map D-6

警視庁付近から西を見た風景。桜田濠を右手に半蔵門へと向かう道は、江戸時代と変わらぬ風景を楽しめる数少ない場所。本図中央、濠端に名水「桜の井戸」が描える。

❸図部分

5 「桃町一丁目山王祭ねり込」 半蔵門

map D-5

国立劇場あたりから半蔵門を望んだ景色。手前に大きく描かれたのは山王祭の山車。当時は多数の山車が半蔵門から入城し、将軍が上覧したため天下祭と呼ばれた。

❸図部分

6 「岩城枡屋呉服店」 麹町

map B-5

四ツ谷駅からのびる麹町大通り沿い、善国寺坂入口に店を構えていたのが岩城枡屋呉服店。江戸中期から後期、武家を相手に成功した繁盛店だった。往時の賑わいが伝わる。

7 「赤坂紀ノ国坂」 元赤坂

map AB-5

外濠通りの紀之国坂（紀尹坂）付近。右手の門は、今も赤坂迎賓館の乗門として健在である。紀伊国坂下には町家の屋根がひしめき合い、道は左端に見える赤坂見附（御門）へと続いている。

8 「紀の国坂赤坂溜池遠景」 元赤坂

map B-6

紀伊国坂を弁慶橋方面に下る途中（元赤坂1丁目）付近。高速道路が架かっていても、弁慶濠とカーブを描いた地形はさも変わらない。本図の大名行列は紀伊殿のようだ。

9 「赤坂桐畑雨中夕けい」 赤坂見附

map BC-6

東京メトロ赤坂見附駅付近。本図に描かれた池は、清水が流れ込んでできた溜池である。現在は埋め立てられて外堀通りに。赤坂エクセルホテル一帯はのどかな田地が広がっていた。池の向こうの丘陵とした森は、赤坂見附（御門）の内にある紀伊徳川家上屋敷。

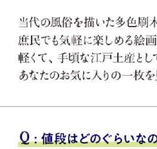
10 「山王」 溜池山王

map C-6

日吉山王大権現社（現日枝神社）は、東京メトロ溜池山王駅からすぐの小高い丘の上に建つ。標門（現神門）付近から境内を見た光景である。徳川家の屋王神として歴代の将軍に崇敬された。現在は都内有数のパワースポットとして人気。

麹町永田町外桜田絵図

この地図に描かれているのは外郷と内郷に囲まれた地域で、現在の永田町、霞が関、麹町の一帯にあたる。日比谷から半蔵門の間には、有力大名の屋敷が多く建ち並び、ながでも井伊掃部頭の屋敷の眼前は、桜田濠が広がり今も昔も、最光明媚な場所として知られる❽。半蔵門から麹町を経て四ツ谷に至る一帯は、江戸の初めからの町人地として知られ、将軍家「岩城枡屋」も暖れをみせていたという❻。さらに四ツ谷から虎ノ門にかけては、紀伊徳川家、尾張徳川家の大屋敷が隣り合い、その南には「山王さん」の呼び名で親しまれる日吉山王大権現社（現日枝神社）❿が鎮座している。



初心者でも心ときめく 浮世絵買い物案内

当代の風俗を描いた多色刷木版画の浮世絵は庶民でも気軽に楽しめる絵画として愛され、軽くて、手頃な江戸土産としても喜ばれた。あなたのお気に入りの一枚を見つけに行こう。

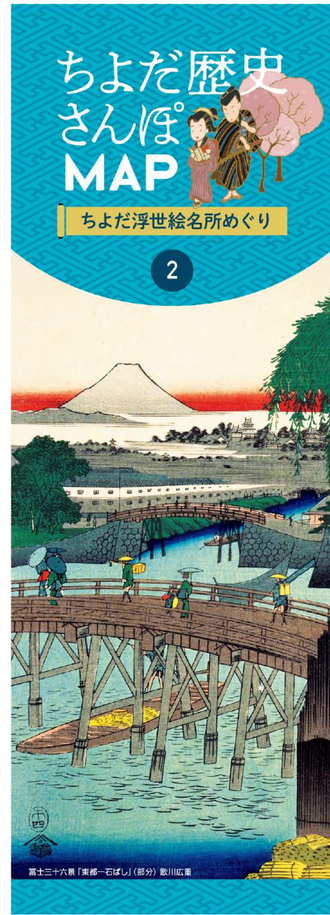
古書店街で有名な神田神保町は、日本でもっとも浮世絵店が集まる街でもある。そう、浮世絵は美術館や本で見るだけでなく、買うことのできる身近なアートなのだ。

ふらりと入っていいの？　初心者でも相手にしてもらえる？　など、心配は無用。ぜひ、散歩の途中に足をのばして、実物の浮世絵と触れてみて。

Q：浮世絵にはどんな種類があるの？

そもそも浮世絵は美術品ではなく、江戸の風俗や流行を描いた庶民向けのメディア。当時大人気だったのが、評判の遊女や町娘を描いた「美人画」や歌舞伎役者を描いた「役者絵」。今でいうアイドルのプロマイドやポスターだ。ほかにも、「名所絵」や「花鳥画」「相撲絵」「武者絵」など種類は多様。

Q：値段はどのぐらいなの？

版画であっても価格はピンからキリまで。広重や北斎など、人気絵師のオリジナル（アンティーク）でも、保存状態やタイトルによっては、数千円から購入できるものも。予算と興味のあるジャンルを伝えれば相談に応じてくれる。

店名	住所	特徴
大屋書房 Ohya Shobo	神田神保町 1-1 営業時間／10:00～18:00 定休日／日・祝（営業の場合もあり）	江戸時代の刷りもの全般を扱う明治15年創業の老舗古書店。路面の大きなウィンドウに飾られた浮世絵や古地図を楽しみにしている人も少なくない。和本や浮世絵が所せましと並ぶ店内を見るだけでもワクワクできるはず。人気の北斎、広重や英泉、豊国、国芳をはじめ様々な絵師の作品が揃うが、近年の注目は「妖怪」ものだという。
東洲斎 Toshusai	神田神保町 1-6 サンビル 1階 営業時間／11:00～19:00 定休日／日・祝	神保町でも数少ない浮世絵専門店。ガラス張りの路面店舗で、顧客も浮世絵が壁一面に展示された店内は、ほっこりした雰囲気。広重や北斎など、誰もが知る有名絵師の傑景画を中心に、美人画や役者絵など、充実の品揃え。額装済みの広重作品を2万円前後とお手頃な価格で購入できるのも魅力だ。ワゴン販売のポスター類も見逃せない。
山田書店　美術部 Yamada Shoten	神田神保町 1-8　山田ビル 2階 営業時間／10:30～18:30 定休日／日・祝	1階は美術書を中心とした古書店。2階は、美しくディスプレイされた浮世絵や和本、美術部が並ぶギャラリーという印象。江戸時代のオリジナル版画からお手頃な復刻版まで幅広い品揃え。絵師ごとに分類された引き出しは、自由に開けて作品を選ぶことができる。吉田博や川瀬巴水など、明治から昭和の新版画も必見。
ギャラリーそうめい堂 Gallery Soumei-do	神田神保町 1-8　山田ビル 7階 営業時間／11:00～18:00 定休日／日・月・祝	江戸時代の浮世絵から近代の新版画、創作版画、現代版画まで、幅広い版画作品を展示販売するアートギャラリー。エレベーターで7階に上がると、清潔感と温かみのある空間が広がる。壁面に展示されている作品はいずれも、摺（すり）や保存状態が良好な作品ばかり。インスタグラムなどのSNSを見て訪れる国内外の浮世絵ファンも。
原書房　版画部 Hara Shobo	神田神保町 2-3 営業時間／10:00～18:00 定休日／日・月・祝	源泉学問連の書籍を扱う古書店の2階が浮世絵専門。落ち着きあるクラシックな空間に額装された浮世絵が展示されている。近年人気の国芳や芳年をはじめ、絵師、ジャンルを問わず良質な作品を幅広く提供している。入荷される作品を楽しみに毎週通う常連客もいるほど、世界一の品揃え誇る浮世絵関連の書籍や図録にも注目。
酒井好古堂 Sakai Kohkodou Gallery	map F-7 有楽町 1-2-14 営業時間／10:00～18:00 定休日／不定休	明治3年に浮世絵の鑑定と復刻事業を目的に創業された日本最古の浮世絵専門店。店名の「好古堂」は、創業者の父と親交のあった思想家の佐久間象山から譲られた書斎号だという。高価なオリジナル版画はかりでなく、新版木で刷った手頃な復刻版も。個別にラッピングした作品が、レコード店のように棚に陳列されていて探しやすい。